

学生派遣プログラム 鯖江 B 班

鯖 ever



BUNRAKU 革命



3 年	政治経済学部	竹内	和俊
3 年	国際日本学部	田崎	理紗
4 年	文学部	仲澤	彩亜
4 年	法学部	近藤	達志

- - 目次 - - - - -

1. なぜ人形浄瑠璃なのか・・・P.2
2. 私たちが考える目標・・・P.2
3. 鯖江市における人形浄瑠璃の現状・・・P.3
4. アンケート・・・P.3
5. ヒアリング調査・・・P.6
6. 鯖江市の伝統芸能に対する意識・・・P.8
7. 政策案の前提・・・P.8
8. 政策案・・・P.9
 - 政策案1 吹奏楽×人形浄瑠璃・・・P.9
 - 政策案2 カフェ×人形浄瑠璃・・・P.11
9. 終わりに・・・P.14

- - - - -

1. なぜ人形浄瑠璃なのか

鯖江市は近松門左衛門が幼少期を過ごしたゆかりの地であり、鯖江市では近年、立待地区を中心とした「近松門左衛門ゆかりの地」としてまちづくりを進めている。

私たちが課題としたテーマは「伝統芸能を利用した地域活性化」そして特に「伝統芸能の普及・後継者育成」という点からである。

なぜ私たちが伝統芸能というテーマを選んだのかというと、伝統芸能という分野が私たちにとって馴染みがなく、だからこそ逆に新しいことができるのではないかという思いからである。実際に調べてみると、伝統芸能というものはつい最近「伝統」になっただけであり、もともとは庶民の娯楽であったのだ。そのころは型にはまったものではなく、時代に合わせて形態を変えていたようだ。

文楽の中でも特に人形浄瑠璃を主にした理由としては、人形を使った文楽ということで他の文楽よりも親しみやすいこと、人形浄瑠璃においては既に鯖江には近松座やたちまち子ども文楽といった地元に着した団体が活動していることから、実現可能性が高いと考えた為である。さらに、調べていく中で人形浄瑠璃は世界一の人形劇であることが分かった。3人で扱う人形劇は他に類を見ず、その繊細な動きは人形浄瑠璃独自である。まるで本物の人間のような細やかな動きを表現することができる。また、文語表現が難しいとは言え、その物語さえ分かればとても「面白い」のである。しかし、その面白さが伝わっておらず、非常にもったいないと感じ、それを鯖江から変えてしまおうという意見がでた。

2. 私たちが考える目標

私たちの最終的な目標として「鯖江を常に活気がある町」にしたいと考えている。

鯖江での6月末の事前調査を終えて感じたのは「鯖江と言えばこれ」というものが、今一はっきりとしなかった点である。その為、最初の時点で、私たちは「観光客の増加」を目的とした政策が必要だと感じ、観光客誘致の目玉として人形浄瑠璃の変革が有効ではないかと考えていた。しかし、8月の本調査初日に行われた熟議によって、鯖江市の求めているものと私たちの追求しているものに相違があることが明らかになった。

まずは伝統文化に対する地元住民の方の文化意識が根付かなければ「普及・後継者育成」に繋がらない。そしてこれらが実現できなければ、観光客の受け入れも難しいのではないのか。その点で私たちはまず「鯖江市全体へ人形浄瑠璃を広める」ことを目標とした。



3. 鯖江市における人形浄瑠璃の現状

地場産業の眼鏡や漆器は既に全国的に知名度があるが、その分 PR 手段が限られている。一方で「近松門左衛門ゆかりの地」として鯖江が存在しているにも関わらず、鯖江市内での注目度さえ高いとは言えない。その為、他の観光資源と比べ今後広げていく余地が存分にあると考えた。

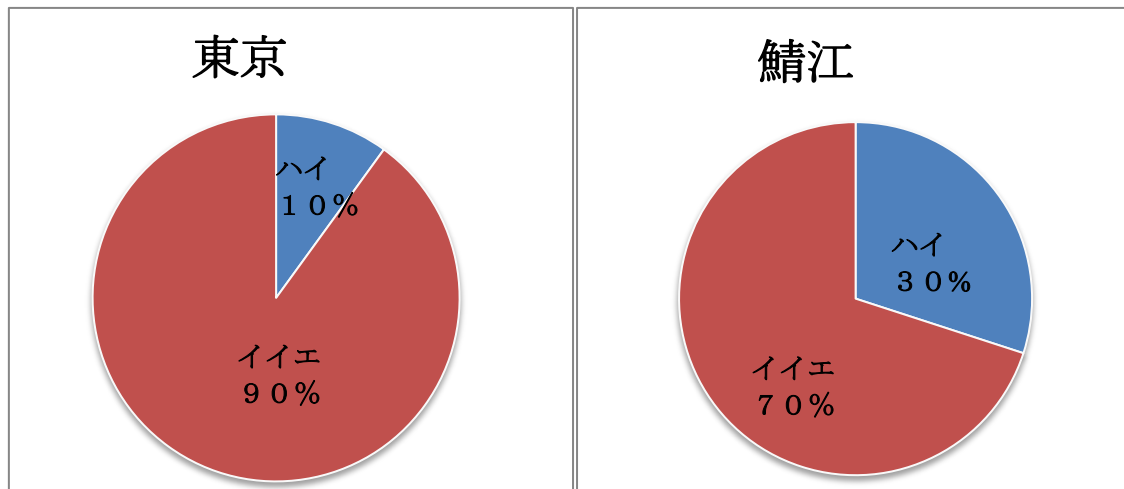
鯖江市にできた近松座は現在 20 名で活動しているが、若い世代の不足が深刻な問題となっている。人形遣いは 6 名しかおらず、人形も 2 体しか動かせないという現状がある。まだできてから 10 年ほどであるということもあり、伝統を重んじるというよりは、皆で作りに上げていく人形浄瑠璃である。

伝統がある座は県外などに多くあるため、伝統の点では他の場所と張り合うことは難しい。しかし、皆で作りに上げる近松座だからこそ取り入れられる「新しさ」があるのではないかと。

4. アンケート

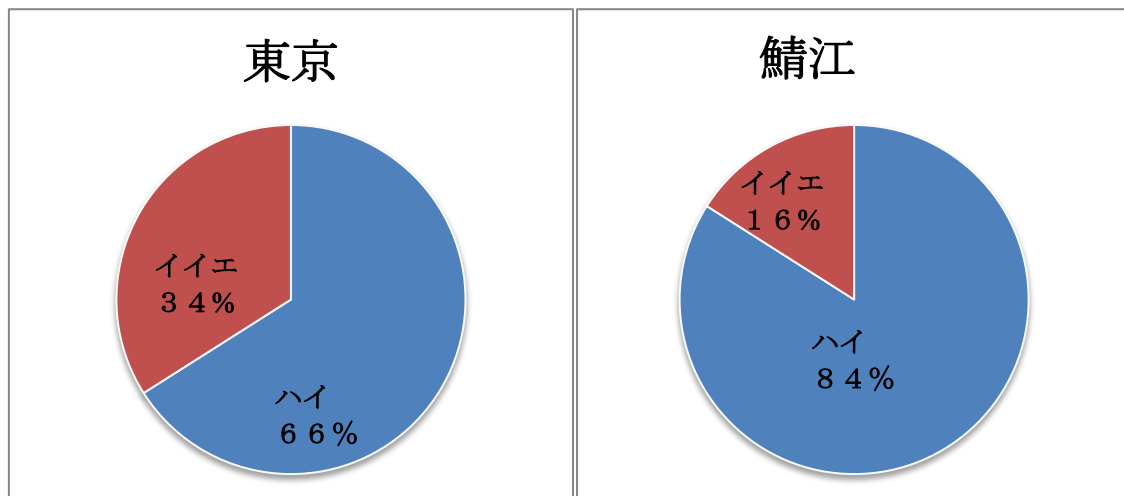
私たちは人形浄瑠璃の意識調査の一環として 2014 年 8 月に、東京の大学生に対してアンケートを行うとともに、鯖江市在住者・訪問者に対してもアンケートを実施した。東京の大学生 50 名、鯖江市 70 名からの回答を得ることができた。このアンケート結果から人形浄瑠璃の現状を分析するとともに今後の課題について検討していきたいと考えている。

(1) 人形浄瑠璃を鑑賞したことがあるか



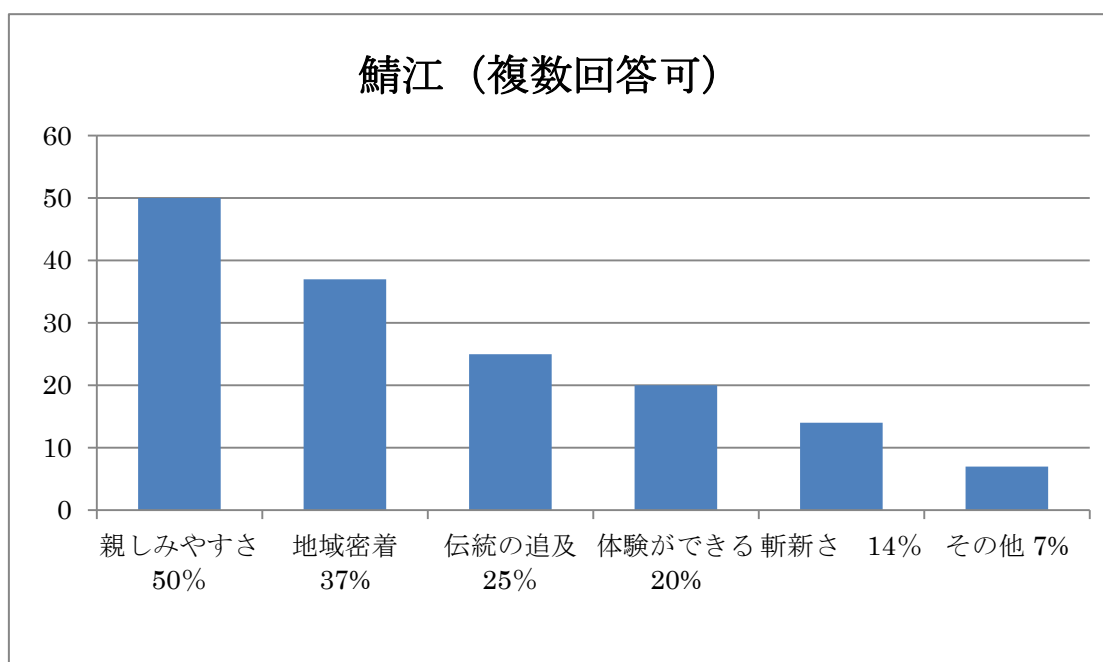
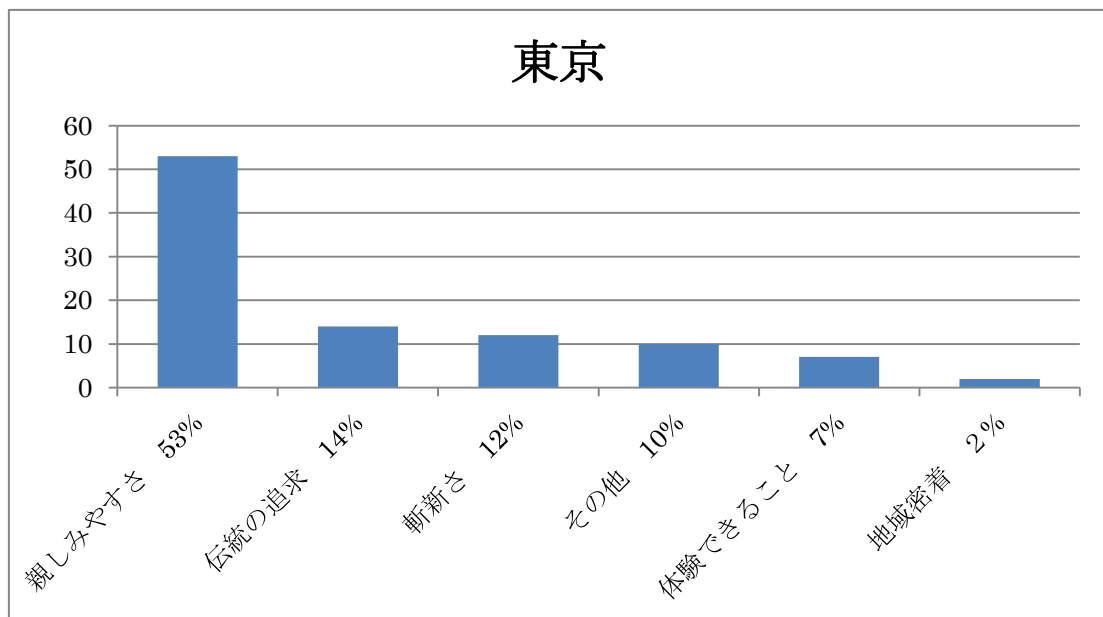
まず、「人形浄瑠璃を鑑賞したことがあるか」という問いに対して、東京の学生では1割、鯖江でも3割しか観たことがないという結果が出た。東京の学生のみならず、近松門左衛門ゆかりの地である鯖江市においても、人形浄瑠璃はあまり馴染みのあるものではなく、まだまだ観たことがない人が多いことがわかる。

(2) 人形浄瑠璃を観たことがない人を対象に、今後人形浄瑠璃を鑑賞したいと思うか



次に、人形浄瑠璃を鑑賞したことがない人を対象に、「今後鑑賞したいと思うか」という問いに対して、鑑賞してみたいという回答は、東京の学生で66%、鯖江で84%という結果が出た。ここでのアンケートでは、人形浄瑠璃を鑑賞してみたいが、「観る機会がない」という意見が多く見られ、人形浄瑠璃を普及させていくためには、人形浄瑠璃を観て、触れる機会を作っていく必要があると分かる。

(3) 人形浄瑠璃に求めるもの（課題）



最後に「人形浄瑠璃に求めるもの（課題）」という問いに対しては、東京の学生、鯖江市ともに、「親しみやすさ」という項目が一番多く半数の人が必要であると考えていることが分かる。アンケートの意見欄において、人形浄瑠璃は「堅い」、「よく分からない」「つまらない」というマイナスイメージの意見が多く見られ、また、本調査初日の熟議においては、鯖江市J K課の女子高生や伝統芸能に関係のない部署の方々にも熟議に参加いただいたが、上記のようなマイナスイメージの意見が多く出た。

一方で、鯖江市では、東京の学生とは異なり、近松門左衛門ゆかりの地ということもあり、「地域密着」である事を求める意見が多く見られた。

(4) アンケート結果から

鯖江市で、伝統芸能（人形浄瑠璃）を活かした町づくりをしていき、後継者を育成していくためには、人形浄瑠璃を親しみやすいものにするとともに、地域に密着し、地域に根ざしたものにしていかなければならないと考える。

5. ヒアリング調査

伝統芸能による町づくりというテーマと私たちが事前に考えた企画案に関係する「たちまち子ども文楽」、「鯖江市中央中学校吹奏楽部顧問の先生」、「近松座」、「鯖江商工会議所」、「コンフォート鯖江」にヒアリングに伺った。ヒアリングをして分かったこと、企画案の根拠となることを記す。

《 たちまち子ども文楽（鯖江市にある人形浄瑠璃の子どもクラブ） 》

ヒアリング理由：テーマである後継者育成の観点から
ヒアリングでわかったこと： ① もっと人形浄瑠璃を知ってもらう場、啓発する機会を増やす お祭りや小学校の総合学習の時間などで、子どもに「親しみ」を持ってもらうことが必要
② 子どもがやり始める動機 「あの子がするなら私もする」など、友人関係によって、人形浄瑠璃を試みようとする子供は多い
③ 指導の循環 たちまち子ども文楽で指導を受けた子供が将来的に指導する立場になっていくのがベスト

《 鯖江市中央中学校吹奏楽部顧問の先生（鯖江市の吹奏楽部強豪校） 》

ヒアリング理由：企画案である「吹奏楽×人形浄瑠璃」の実現可能性に関して
ヒアリングで分かったこと： ① コラボレーションの可能性 地域の特性を絡め合うのは面白いし、実現可能性は高いだろうという前向きな意見 顧問の先生には時期が合えば参加はできると思いますとも言ってもらった
② コラボレーションの仕方 既存の曲（例：恋するフォーチュンクッキー）を吹奏楽部がバックで演奏して、 人形浄瑠璃が前で舞を披露する形

《 近松座（近松門左衛門ゆかりの町鯖江を情報発信している市民劇団。発足して10年弱。） 》

ヒアリング理由：普及する方法（人形浄瑠璃のPR）などに関して
ヒアリングで分かったこと： ① 体験できる機会 私たちは実際に人形浄瑠璃の人形を操る体験をさせてもらった。その時、都市部出身の私たちはこのような体験できる機会に恵まれていないことを実感した。体験できることは強みであるのと同時に、地域密着に活かせる点で重要ではないかと感じた。
② 近松座の技術面 人形浄瑠璃を極めるのには30年がかかると言われていて、近松座も出来て10年弱であり、人形浄瑠璃を指導するのは中々難しい。
③ 吹奏楽×人形浄瑠璃のコラボレーションの可能性 動きが明示されていたら実現するのではないかと言われた。 やると決まったならば全力でやりたいと思いますとも言ってもらった。

《 鯖江商工会議所 》

ヒアリング理由：商店街や空き店舗の状況に関して
ヒアリングで分かったこと： ① 商店街事情 カフェやふらっと気軽に立ち寄れるようなお店が商店街には不足している。
② 独自性の重要性 そのお店にお客さんが来るように、惹きつける何かが必要。

《 コンフォート鯖江（NPO法人であり、市民文化活動を支援している団体） 》

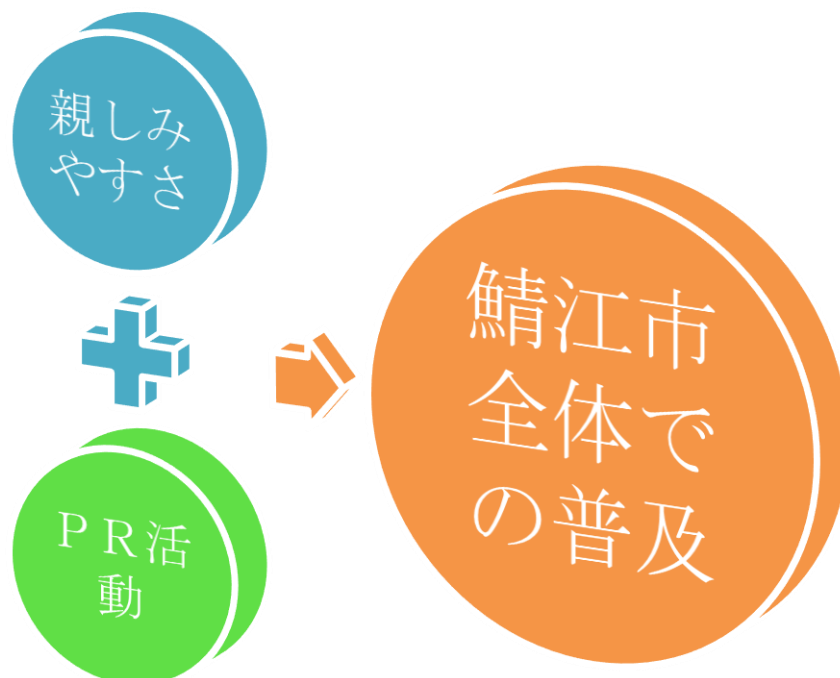
ヒアリング理由：鯖江市の文化活動に関して
ヒアリングで分かったこと： ① JR2階にカフェがオープン そこにはイベントスペースがある。本も置くと言っていたので、人形浄瑠璃の文化の啓発に活かせる余地があるのではないかと感じられた。
② 意識の重要性 自分も参加しているという意識が重要。

6. 鯖江市の伝統芸能に対する意識

今回の3泊4日の本調査における熟議や各団体へのフィールドワーク、さらには、中間発表後の市長並びに鯖江商工会議所の会頭の講評を通して、鯖江の伝統芸能に対する地域の温度差を実感した。鯖江市が人形浄瑠璃の脚本家で有名な近松門左衛門ゆかりの地ということで、そのことを活かして活動している人たち（例えば、ボランティアガイドの方等）もいるが、その中心が立待地区の人たちばかりで、その他の地区の人たちにとっては、伝統芸能に触れる機会も少なく、意識も低いという温度差があるというのが現状である。そこで、こういった伝統芸能に対する意識を変えていくこと、地域の温度差をなくすことが伝統芸能を活かした町づくり、後継者育成につながると考える。

7. 政策案の前提

目的が伝統芸能の後継者育成であるので、伝統を残し、継承していく必要はあるが、後継者を確保していくためには、新しいものを取り入れ、堅いというイメージを変え、親しみやすいものであると感じさせる必要があると考える。また、いきなり後継者育成を始めようとしても、大人である私たちがよく分からないものを、子どもたちが分かるはずがないだろう。分からないものを始めようとは思わない。そこで「もっと知ってもらう場」、「啓発する機会」つまりPR活動を増やすことが必要となる。



8. 政策案

1) 人形浄瑠璃×吹奏楽

鯖江は近松門左衛門ゆかりの地であること、また吹奏楽が盛んであること（ヒアリングに伺った鯖江市中心中央中学校の吹奏楽部は今年全国大会出場）
⇒鯖江の地域性を活かしている。

2) 人形浄瑠璃×カフェ

鯖江は近松門左衛門ゆかりの地であること、また鯖江の商店街にはカフェ（気軽に入れるようなお店）が少ないという負の地域性
⇒カフェ×人形浄瑠璃は地域性を活かし、現在商店街が抱えるマイナスの側面を解決。

●政策案 1

【 吹奏楽×人形浄瑠璃 】

「親しみやすさ」につながる楽しさを生み出すための案として、「人形浄瑠璃と吹奏楽のコラボレーション」を提案する。現在鯖江市の小中学校では吹奏楽部の活動が非常に盛んであり、鯖江市内では「吹奏楽フェスティバル」も実施されている。この新たな鯖江文化とも言える吹奏楽を人形浄瑠璃とコラボレーションさせてみてはどうか。

〈 実施概要 〉

「近松まつり」にてメインイベントとして公演

① 場所 ：近松まつり開催地（立待地区）

近松まつりは立待地区で年 1 回行われる「近松門左衛門ゆかりの地」独自のお祭りであり、毎年 5000 人程の集客を誇る。鯖江市中心街から参加する住民の方も多く、「近松のまち鯖江」を市全体に広めるための最も効果的なイベントである。

今年度も人形浄瑠璃(外部)とダンスのコラボレーションなどユニークな舞台公演も行われており、初の取り組みの披露場所としては最適な場面と言える。

② 公演者：「近松座」「たちまち子ども文楽」のみなさん×地元小中学校吹奏楽部

上記コラボレーションの取り組みは現在市外の公演団体が行っており、“鯖江独自”とは言い難い。そこで、鯖江市で人形浄瑠璃の公演を行う「近松座」、そして地元の小学生がそれを行う「たちまち子ども文楽」のみなさんに共演して頂く。

この2つの団体は近年設立されたものであり、伝統を追求する人形浄瑠璃よりも「楽しさ」「親しみ」を表現する人形浄瑠璃を提供でき、それがまた鯖江にしかない人形浄瑠璃のアイデンティティとして確立できると考えた。

今回ヒアリングに協力して頂いた鯖江市中央中学校は今年全国大会へ出場という実力、話題性も持ち合わせた学校であり、集客力も期待できる。

③ コラボレーション内容

人形浄瑠璃の舞いを披露する後ろで吹奏楽部の演奏、パフォーマンスを行う。吹奏楽は非常に柔軟な選曲、パフォーマンスが可能であり、それに合わせた人形の舞いを披露することで斬新な形の人形浄瑠璃を提供できるだろう。



実現可能性のある例

- ・吹奏楽部が後ろで踊りながらの演奏（人形と同じ舞いをする事も可能）
- ・和装、あるいは華やかな衣装を纏いながらの演奏
- ・流行ポップス曲の演奏により、会場の子どもたちと一緒に歌い、踊る
（ex.妖怪ウォッチ「ゲラゲラポーのうた」など）
- ・三味線や大夫の語りを活かすための小編成演奏

[期待できること]

- ・地域の密着性・関係性の高まり

現状として、近松座と他団体、学生との繋がりがほとんど無い。しかしこれらの企画を通し「共に作品を作り上げる」ことで、地元間での深い結びつきが必ず生まれると考える。

- ・若者の舞台参加による若者世代の関心

「共に作品を作り上げる」経験というのは「ただ観る」経験と大きな差がある。より人形浄瑠璃を身近に、楽しいものだと感じてもらう為に、若者の舞台参加は非常に有効な策であり、生徒たちの友人や保護者層の関心も集めることができる。

- ・とにかく楽しい！

このような異なる文化のコラボレーションによって、広い層の住民の方も「楽しく見る」ことができ、公演者も「楽しくパフォーマンス」ができる。互いのコミュニケーションを深めながら、新たな企画案を生み出していくことが可能であり、そのアイディアは無数に存在する。

●政策案 2

【 カフェ×人形浄瑠璃 】

カフェとは、どんな年代の人も気軽にふらっと立ち寄れるものである。その気軽さを人形浄瑠璃と組み合わせることによって、人形浄瑠璃が人々にとってより親しみのあるものになるのではないかという狙いがある。

具体案は 2 つある。

① JR 鯖江駅の 2 階にできるカフェにおいて月に 1 回から 2 回「人形浄瑠璃 cafe」を開催。

現在 JR 鯖江駅の 2 階に、NPO 法人コンフォート鯖江が、図書館を併設したカフェを建築中である。そのカフェでは地元のロックバンドのライブや、鯖江の話題の人による一日店長など、様々な企画をする予定があるそうだ。その企画の 1 つとして「人形浄瑠璃 cafe」を開催することは可能であるという話であった。カフェの一角で演目や舞いなどを披露し、またその後に人形に直接触れることができる体験コーナーも設置する。そのことによって、

定期的に、そして気軽に人形浄瑠璃に触れる機会を、鯖江の市民の方々に提供することができる。鯖江駅の2階という場所から、幅広い年代の人が来ることが見込めるだけでなく、ゆくゆくは観光客の獲得も見込めるのではないだろうか。さらに、そのカフェに参加することによって、そのカフェで活動している他の地元の人々（ロックバンドの人たちや、学生や、鯖江の面白い人）とのつながりが生まれ、多様なコラボの実現性が高まることが期待できる。

② 商店街の空き店舗を利用し、人形浄瑠璃の練習場とカフェを兼ね備える。



平成26年度 空き店舗チャレンジショップ
対象店舗

(鯖江商工会議所 産業振興課より)

商店街にある空き店舗を、近松座とたちまち子ども文楽の練習場として利用し、そこに人形浄瑠璃 café も併設する。街中にある商店街にあえて設置することによって、立待地区と鯖江市の他の地区との温度差を埋める役割ともなる。鯖江市全体で「近松のふるさと」を盛り上げるためには、まず地域の温度差をなくすことが大切になってくる。

また、練習場にすることによって、必然的に人の出入りが生まれる。特にたちまち子ども文楽の子供たちが出入りすれば、その友達や保護者の出入りも見込め、商店街全体が、活気づくことが可能と考えられる。子供たちが来るならば、駄菓子を売ってみようとか、近松に関するお土産を売ってみようというお店も現れるかもしれない。

そして、そこにカフェを併設することによって練習しに来た人以外の市民も立ち寄れる場所にする。練習の見学も気軽にできるようになることが望ましい。市民の人たちが近松座や子どもたちの練習をふらっと見に来て、一緒に作り上げていくようになってほしいと思う。

<経営に関して>

曜日によって経営者が変わるようにする。また、カフェをやってみたい人を募り、貸出のカフェといった形をとる。まちなかゼミの場所提供としても使うことが可能である。

例) 月曜日：近松座

火曜日：休み

水曜日：カフェをやってみたい人 1

木曜日：まちなかゼミ

金曜日：大学生

土曜日：カフェをやってみたい人 2

日曜日：カフェをやってみたい人 3

これによって近松座の負担もあまりなく、様々な人が人形浄瑠璃に関わる機会を作ることが可能となる。その日に得た利益は、その日に経営していた人のものとする。ただし、場所代として、いくらか近松座に払うシステムにする。

<内装に関して>

河和田アートキャンプの学生とコラボすることを提案したい。河和田アートキャンプの活動は河和田地区で主に行われているようであるが、それだけではもったいない。このカフェを作り上げることを河和田アートキャンプの一企画とすることによって、大学生との接点生まれ、また費用も抑えることができる。河和田アートキャンプの学生たちも、河和田地区を超えた活動が展開できるようになる。



近松座の人たち、子どもたち、大学生、市民の人たち、商店街の人たち。いろいろな人たちが関わりあって、作り上げる、“交流の場”となることを目指す。

9. 終わりに

鯖江は「近松門左衛門ゆかりの地」であるにも関わらず、今までそこにあまり目をつけていなかった。それに伴い、住民の意識にも差が見られる。人形浄瑠璃をもっと地域で愛される伝統芸能にすることによって、ゆくゆくは観光資源となることを目指したい。そのためにはまず、今ある人形浄瑠璃という資源に地域の人が目を向け、親しみを持つことが重要となっている。この政策案により、鯖江の地域の人々がわくわくする場所が増えることを目指す。

私たちの成果報告の内容は以上である。私たちのグループは鯖江に関しても、人形浄瑠璃に関しても全く知らない、一からのスタートであった。

しかし、事前調査、本調査を通し、鯖江と人形浄瑠璃について親しみを覚えていったことは確かなことである。そして、与えられた課題に対する政策提言案も徐々にだが見えてきた。そのことと同様に、今一度、鯖江の方々にも近松門左衛門ゆかりの地である鯖江の人形浄瑠璃に触れ、親しみを感じてほしい。このような願いもあり、私たちの政策提言案は親しみやすさ・地域密着を追求することにした。

今回の私たちの政策提言案によって、人形浄瑠璃に触れる人、自分たちの住んでいる鯖江という町や文化について考える人が現れ、人形浄瑠璃が普及し、最終的に後継者の育成に繋がることを信じる。

成果報告書完成までに、様々な関係者の方々にお世話になりました。私たちの担当をしてくださった鯖江市文化課の浮山様、鯖江市役所の皆様、鯖江商工会議所の皆様、ヒアリングで訪問させていただいた、たちまち子ども文楽様、鯖江市中央中学校様、近松座様、コンフォート鯖江様、そして明治大学社会連携事務室の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。